

## グローバルリーダーに求められるエージェンシーの育成 ～自己調整学習を通して～

### ◎学校教育目標との連動について

グローバルリーダー (Think globally, act locally) の育成  
～未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、自己を磨き高め合う子どもの育成～

### ◎「エージェンシー」「自己調整学習」について

○「エージェンシー」とは、

『変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力』

今後、より“VUCA (Volatile「変化のしやすさ」、Uncertain「不確実さ」、Complex「複雑さ」、Ambiguous「曖昧さ」)”な時代になると予想される未来で、ウェルビーイングな未来の実現に向けて、あらゆる課題に当事者意識を持ち、責任を持って行動する力が必要となる。主体的に自ら学びを進めていく児童を育成していきたい。

○「自己調整学習」とは、

『学習者が、メタ認知、動機づけ、行動において、自分自身の学習過程に能動的に関与していること』

これまで研究してきた「情報活用能力」を発揮し、今後さらに児童自らが学習の見通しを持って計画を立て、実行し、自身の学びを振り返って次時に繋ぐ力を育成したい。つまり、児童が自己調整しながら学びを主体的に進めていく学習を研究の手立てとする。

#### <理由①>本校の児童と教師の願いより

本校の児童は、知識・技能の資質・能力は十分に身に付けることができていると考えられる。全国学力状況調査より、国語・算数共に知識・技能の正答率は、国語・算数共に80%に達しているが、思考力・判断力・表現力の正答率は、国語と算数2教科の平均が80%に満たなかった。このことから、児童の思考力・判断力・表現力の資質・能力を育成する部分においては、まだまだ伸ばすことができると思われる。また、より思考力・判断力・表現力を育成するためには児童が当事者意識や必然性を持って、主体的に学びを進めていくことも必要不可欠であると考えるとともに、職員アンケート（今後、本校児童に付けたい力）結果が以下のよう内容であった。

「情報を活用して、考えを具体的に伝える力」「有言実行」「対話」「自ら学び、他者と学びを分かち合う」  
 「学びをつなぎ生かす力」「何が自分でできるか判断」「目標に向かって努力」「実行する力」「寛容」  
 「省察」「自分で考える」「持久力」「学び合う」「振り返りの充実」「個別と協働の両輪」「個別最適」  
 「自分事」「見通し」「自己調整」「自己指導能力」「メタ認知」「自分の学習を自分で調整」「動機づけ」  
 「学習法略」「判断する力」

#### <理由②>授業改善の課題（指導教諭の授業観察）より

R4年度から3年間の指導教諭による授業観察における評価結果から、「まとめ・振り返り」「きめ細かな指導」の2項目が授業改善の課題として明らかとなった。今後の授業改善のポイントとして「まとめ・振り返り」「きめ細かな指導」に関わる“自己調整学習の研究を進めていく必要性を感じている。

#### <理由③>附小ビジョン 9マトリクスとの連動

育成を目指す資質・能力	知（確かな学力）	徳（豊かな心）	体（健やかな体）
知識・技能	言語能力	礼儀	持久力
思考力・判断力・表現力	情報活用能力	公共	自己認知力
学びに向かう力・人間性	調整力	寛容	自律

<理由④> 「小学校学習指導要領解説 総則編」より

「児童（生徒）一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り開いていくためには、主体的に学習に取り組む態度を含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。」

→ 「主体性」「自主性」「自己調整力」が、今後より重要となる。

<理由⑤> 「今後の教育課程、学習指導及び学習評価のあり方に関する有識者検討会 論点整理」より

「子供が興味・関心や能力・特性等に応じて自ら教材・方法・ペース等を選択できる学習環境を教師が適切にデザインすることなど、学習者が主体的に学ぶ中で自ら学習を調整しつつ資質・能力を身につけることの重要性やその中で教師が発揮すべき指導性について、具体的に議論し、位置付けを検討すべき。」

→ 児童が進んで学びを進める単元づくりや授業研究について、検証が必要となる。

## ◎校内研究における取組について

【「エージェンシー」「自己調整学習」について】

- 「エージェンシー」「自己調整学習」について共通理解を図る。
- 「自己調整学習」に関連する、「学びに向かう姿・人間性」に関連した部分に着目する。
- 「エージェンシー」を育成するために、特に「見通し」「振り返り」の有効な手立てやめざす子どもの姿について研究を行う。
- 「AAR サイクル（学習者が継続的に自らの思考を改善、行動するための学習プロセス）」を意識して授業改善を図り、「自己調整学習」を研究する。

A (Anticipation) <b>見通し</b>	「学習計画」「選択・決定」
「こんな力つきたいな」 「どんな方法を使って調べようかな」「どんな順番で取り組もうかな」 「どんな道具を使うといいかな」「既習内容で使えるものがあるかな」 と、目標達成に向けた学習計画を立てたり、めあて・課題の設定をしたりする。	
A (Action) <b>行動</b>	「遂行コントロール」「モニタリング（現状の把握）」
「順調かな」「今どこのあたりにいるのかな」「このまま進んでも目標にたどり着けるかな」 「友達はどんな方法で取り組んでいるのかな」 と、モニタリングを適宜しながら行動し、考えを形成したり情報共有したりする。	
R (Reflection) <b>振り返り</b>	「自己評価」「原因の分析」「メタ認知」
「今日の方法はよかったのかな」「なぜ、うまくいった（いかなかった）のかな」 「次はどのようにするといいかな」 と、自分の学び方を分析しながら振り返り、次に生かす。	

1. テーマ設定の理由

### 自己調整学習の授業のイメージ



【二つの柱 各教科・領域の授業研究 学級経営の充実を図る】

各教科・領域の授業研究

- チーム研究により授業改善を図る。

- ① 個人研究とならないため＝複数で多面的・多角的に検証し、授業改善を図るため
- ② 教師が主体的に研究を進めていくため。

<チーム編成> ※ファシリテーター（◎）を中心に研究を進める。

チームA	◎山本（社会）、岡（社会）、松下（図画工作） 梶原（国語）、大西（国語）、加来（国語）
チームB	◎伊東・大塚（総合）、藤井（生活）、清水・藤並（体育）、福田・渡邊（算数）
チームC	◎蔦谷・木村・後藤（特別活動）、安河内・入不二（外国語）、丸尾・平井（道徳）

○2月に「公開研究会」を開催し、地域への貢献に努めるとともに、外部評価を生かし授業改善を図る。

#### 学級経営

○四つの取組について、職員間でねらいを共通理解したり、取組を振り返ってブラッシュアップしたりするための研修を行う。

○四つの取組の充実を図るため、講師を招聘し、研修を行う。

### ◎授業研究をする上でのポイント

○児童が授業でどのように自己調整していたかは、児童の姿から見取っていく。

「職員アンケート（本校児童につけたい力）」に

学びをつなぎ生かす力 目標に向かって努力 省察 振り返りの充実 見通し メタ認知

自分の学習を自分で調整 動機づけ等

の言葉があった。

これまでも、児童が主体となる授業づくりをしてきたが、より児童たちが自ら学び進めていく力を育みたいと考えた。今年度は特に、「見通し」「振り返り」に焦点を当てて研究したい。

そのための研究の視点として、以下の2点について検証していく。

#### 【視点】

- I. 児童が課題解決に向かって、見通しを持つことができるようにするための手立て
- II. 学びの過程と自己の変容を自覚し、児童自ら学びを進めるための振り返りの工夫

#### 【見取りのポイント】

- ・児童がどのように選択・決定していたか。
- ・児童がどのように当事者意識を持って学びを進めていたか。
- ・どのような手立てが有効だったか。どのような手立てを講じるべきだったか。